

2017年度進捗状況の点検評価への対応状況

2018年8月にいただいた点検評価結果について、その対応を以下に示します。いただいた提案は参考にさせていただき、引き続き取り組みに活かしていきます。

	提 案 事 項	対 応
基本 目 標 1	<ul style="list-style-type: none"> ・「みどりのカーテン」事業については、設置場所に関する啓発活動について力を注いでいただきたい。 ・地球温暖化に対する市民理解醸成のため、すべての年齢層へのアプローチとなる学校教育や地域の活動(町内会・市民サークル等)における恒常的な浸透啓発活動を進めていただきたい。 ・「わたしのエコ宣言」については、町田市役所のホームページから直接登録できるなど利便性をもっと良くしてはどうか。 ・太陽光発電はある程度普及しているため、今後は太陽熱利用システムや蓄熱システムの普及拡大に取り組んではどうか。 ・電気自動車は充電施設の拡大に向けた施策等、今後も普及促進が必要である。 ・ヒートポンプ(エコキュート)の導入支援、情報提供は施策実現に向けて有効である。 ・マイカー使用をできるだけ控える市民の割合が毎年減少しているなどの課題があり、市民の環境配慮行動の推進に努めていただきたい。 	<p>より多くの市民への環境配慮行動を推進するためのアプローチ方法について、ご提案を多くいただきました。市では提案事項にあったように市民の行動につながる事業活動が重要であると考え、取り組みを進めています。例えば、「みどりのカーテン」事業は、広報紙やホームページによる周知に加え、公共施設への設置を強化し、市民の方が設置の状況を目にする機会を増やすことで啓発を進めています。また、マイカー使用について、従来の周知方法に加え、FC 町田ゼルビアが主催するウォーキングイベントに協力した啓発活動も行っています。今後も事業の内容・対象にあった普及促進の方法を検討し、市民の方に届く啓発活動を進めていきます。</p>

<p>基本目標2</p>	<p><第二次町田市環境マスタープラン></p> <ul style="list-style-type: none"> ・水辺の魅力発信のイベントは、市民団体や大学と連携し共催してはどうか。 ・自然と触れ合う企画などが町田市の北部に集中しているように感じるが、町田市の南部でもたくさんの企画を行っていただきたい。 ・観光交流拠点を活用したイベントの実施を強化していただきたい。 <p><町田生きもの共生プラン></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報拠点のあり方を検討する中で、公設民営方式だけでなく、民設公営方式も検討していただきたい。また、名称も検討が必要である。 ・情報拠点機能の充実は緑地や水辺を管理している市民団体と協働して生息している生物等の紹介プレート設置から始めてみてはどうか。 ・元々興味の無い市民が取り組みに関心を持つためには、駅などの人が集まる場所での情報拠点設置やチラシ配布など、攻めの姿勢が必要である。 ・市民の参加と協力を得るため、市報でのPRの他、学校、自治会などの団体へのアピールが必要である。 ・「意識高揚」について、ホームページだけでなく、ポスターやマスコミの利用など効果的なPRを行ってはどうか。 ・市民が参加できる生物多様性フォーラム、生きもの調査、ビオトープ作庭イベントなどの内容を充実させPRを積極的に行っていた 	<p><第二次町田市環境マスタープラン></p> <p>イベントや企画について、ご提案をいただきました。今後も、町田市の地域特性を活かした企画を検討していきます。また、SNS やアプリ等のツールを活用し、市街地でも自然との触れ合いが感じられる事業展開も現在進めています。</p> <p><町田生きもの共生プラン></p> <p>情報拠点機能や市民向けのPRについて、多くのご意見をいただきました。情報拠点のあり方については、まずインターネット上に機能を構築することとし、ホームページでの発信の他、新たにスマートフォンを活用して情報の収集を開始しました。各種イベントや事業実施にあたっては積極的にプレスリリースや取材対応を行い、バス広告を利用してPRしました。市民生活に関わる外来生物防除事業は、自治会掲示板へチラシ掲示を行います。今後ご意見を参考にしながら、市内の生きものや自然の取り組みに関心を持っていただける方法を検討してまいります。</p> <p>ビオトープについては、2019年度、小学校での出前授業を開催しました。親子向けには生きものとふれあえるイベントを開催しております。今後も、幅広い年代に向けた取り組みを進めてまいります。</p>
--------------	--	---

	<p>だきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物資源利用促進は、活用している団体の収入になるような事業になるのが理想である。 ・ビオトープ作庭イベントは学校を拠点にしてはどうか。 ・親を巻き込み、子供たちに自然と多く触れ合える場や機会を作る必要がある。 ・「人材育成」については、時間・知恵・意欲がある高齢者を活用してはどうか。 	
基本目標3	<p>・市民に循環型社会を意識付けるには、縛りだけではなく、「良かった」と感じさせること(インセンティブ)が必要ではないか。そのための方策を考えていただきたい。</p>	<p>ご提案のように、市民への意識付けをいかに行うかは重要な課題であると認識しています。その手段の一つとして、「ごみと環境の出前講座」では子どもから大人までの年齢層に応じたメニューを用意し、環境教育を行っています。今後も、ごみの減量・資源化が環境負荷の低減につながっていることを周知し、市民一人ひとりに自発的な行動をしていただけるよう、啓発方法を検討してまいります。</p>
基本目標4	<p>・アンケートの「不快である項目」の点検をさらに進めていただきたい。</p> <p>・pHが環境悪化に直結しない指標であるならば、オキシダントと同様に評価指標から外すことも考える必要がある。</p> <p>・居住地の周辺環境の快適性について、アンケート結果の「どちらともいえない」の理由がわかるような質問もあるとさらに良好な環境の創造につながられるのではないか。</p>	<p>生活環境における広義の環境改善は、より多くの部署が関連するため、庁内の連携を高め、良好な生活環境の実現につなげていきます。</p> <p>指標の設定については、計画改定時に検討課題とします。</p>

<p>基本目標5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まちだエコ宣言事業者を増やしていくため、制度の PR の回数を重ねていただきたい。 ・環境学習イベントや環境イベントは、参加者の満足度は高いが、まだまだ存在を知られていない。もっと広く広報する工夫が必要である。 ・市民が「行動による効果が実感できない」ことについて、行政サイドとして何をすべきか、どう行動をとるべきかを考えなければならない。効果が「お金」でわかるようにするなど、貢献した実感があれば、積極的に環境に配慮した生活をめざせるのではないか。 ・使い捨てプラスチックの削減のための企画をもっと増やすとよい。 ・生ゴミの堆肥化等、農業者との協働と環境学習が融合した企画があるとよい。 	<p>環境啓発の制度やイベントを効果的に広報する手法等について、ご提案をいただきました。市では、環境に配慮した行動のメリットや効果を市民に理解していただくことは啓発の上で重要であると考えています。例えば、「エコドライブ」では燃料消費量の節約効果、「わたしのエコ宣言」では取り組みによる二酸化炭素削減効果や節約金額を紹介しています。また、「まちだエコ宣言事業者」については登録事業者にとって有効な PR となるよう、新たに広報紙や環境白書で制度や登録事業者の取り組み紹介を行っています。</p> <p>引き続き、こうした取り組みを意識し、より多くの市民や事業者にも効果の実感をもって参加していただけるよう検討していきます。</p>
--------------	---	--